資 料 3

これまでの主な意見（まとめ）

◇＝新ビジョン検討会議　☆＝アドバイザー意見交換会　〇＝ミライ・トーク
□＝有識者インタビュー　▽＝属性別の意見交換　◎＝WEB アンケート

1　新ビジョンにおける「目指す都市像」について

◇ 高齢化社会の中、北九州市が先陣を切って、どんな地域にシフトしていくかを日本の中で示していくことが期待される。
◇ 福祉の分野から、高齢化率が最も高い北九州が先陣を切ってどういう地域へシフトしていくのか、日本の中で見せていく力は期待されるべきものがある。
◇ 市民すべてが自分の尊厳を保ち、やりたいことやなりたいものを選べる機会が提供される街。また、市民すべてが、他者や社会とのつながりを感じると共に自分の属するコミュニティを持ち、地域内の限られた資源のなかで幸福に暮らすことができる街。
◇ ウェルビーイングに取り組む街。
◇ 生産性の向上策のモデル化と海外への普及。
◇ 人口減少対策のモデル化と海外への普及。

☆ 北九州市の歩みからも時代に合わせて変化し続けられる自治体として可能性を秘めていると思う。今の時代、変化は、日本だけはなく世界でも求められていることであり、北九州市は栄光、衰退、そして復興という代表的な都市になると思う。
□ 北九州市の強みとして、逆境を跳ね返す力を持っている。
□ 高齢化社会が進んでいるので、北九州市がリードし、住みやすいまちづくりを進め、日本のモデルケースに。
☆ 自分たちの地域の様々な取り組みを通じて、日本はもとより世界にどう貢献していくのかというのが大事。
□ 日本は課題先進国と言われているが、その中でも、課題を先進的に解決していく都市を目指すことが望ましい。
□ 他の街が経験したことがないことを北九州市は先んじて経験している。先にいったからこそ、その目線を早くから示すことができれば、素晴らしいモデル都市になれる。
☆ 世界で一番活力のあるアジア太平洋地域の最前線にいる北九州は、東京や大阪を見るのではなく、西側（アジア）に目を向けると良い。
☆ 日本全体が衰退国家になってきている今、北九州が起爆剤になって、日本のリーダー的な役割を果たしていけると良い。

□ 先進国はほぼすべて人口減少局面に入っているので、その都市型のモデルケースを作れば、世界に誇れるまちになる。
□ 北九州市から日本を変える、世界を変えるというまちにしてほしい。地域志向ではなく世界志向で、この地域がどう貢献するのか、世界的なビジョンを持つまちになってほしい。

２　新ビジョンにおける「重点戦略」について

（１）「稼げるまち」の実現

① 産業関係

◇ 人口減少に対する労働生産性の向上、給与水準への反映。
◇ 地元企業の「稼げる力のレベルアップ」、「スタートアップ」「リスキリング」の支援はやらないといけない。
◇ マーケティングや経営戦略に関する支援。
◇ 北九州市の魅力は世界に発信していくべきだと思っており、海外でもビジネスの機会をさらに増やしていけばいいのではないか。
◇ 新しい産業の誘致が必要。そのための条件として重要な要素は、カーボンニュートラル。再生可能エネルギーが多く、これからは風力も加わるため、100%自主エネルギーでいくということになれば企業誘致にはひとつプラスとなる。
◇ エネルギーの地産地消と企業誘致。
◇ 北九州市はグリーン成長戦略を作成しており、脱炭素、水素の２つの柱を掲げている。脱炭素は迫られる話であるので否が応でもやらなくてはならない、それとチャレンジグな水素は非常にいい組み合わせだと思っている。
◇ 他の都市にはない規制緩和特区環境の中で新しい技術を試してみることができ、それによって新しい世界を現実社会で実感できる環境を実現する。
◇ ＩＴ、ＩＴベンチャーが増えれば、若者は増えていくのではないか。
◇ IT 企業誘致、ベンチャー企業の創出、サービス業の誘致。
◇ 企業誘致に力を入れるべきと考える。IT 企業や IT ベンチャーが多いまちになれば、若者は必然的に増えていくのではないか。
◇ 高齢者も働き続けられる環境整備。
◇ 高齢者の実態調査をすると、社会に貢献したいと思う方が非常に多いが、その場所がない。ボランティアではなく、それに収入が伴うものであれば、より望む人が多い。
◇ 働き続けたい高齢者を受け入れる環境が大事。

□ 企業とうまくタイアップし、大学を活用して技術者が学べる環境を整え、地域に根付いて、地域の方々がもう一度大学で学ぶことができる仕組みづくり。
□ 新たな時代に適合するビジネスの創出が必要。
◎ 風力発電や水素先進国として国際社会を牽引する都市。
◎ 安定した自然エネルギー発電の先進地となること。

□ ＤＸ・ＡＩをいかに使えるものとして持っていくかが問題。ＤＸ・ＡＩを試せる街、ということで他ではできないことをして差別化をしていきたい。
○ ロボットやAI、IoTが活用され、世界をリードする実証都市に。
□ 社会課題がたくさんあることに加えて、ものづくりの技術もあるため、北九州市を社会実装という観点から考えると、様々な実験ができるポテンシャルがある。
☆ 災害が少ない利点を生かし、バックアップ都市へ。
□ ＢＣＰの観点から、いろんなところに分散していることが価値になる局面が出てくる。

□ 今後の社会変革に対応できて、環境変化に適応できるような企業を北九州市に誘致して欲しい。具体的には、デジタル技術関連の企業、ＩＴ企業など。
○ 学研の地に、ＡＩや人工知能、ＩＴなど新しい産業への転換が必要。
○ ＩＴ、ＡＩを含む新産業の発信地域。
□ ＩＴとロボティクスを尖らせたらいい。

② インフラ関係
◇ ポテンシャルを生かし、他との差別化を図るには、物流＋人流の拠点。
◇ 運輸・物流、職住近接も含めた小さいまちづくりを目指せば、企業誘致にはプラスとなる。
◇ 不足している産業用地の供給。
◇ 産業構造の転換と都市構造の転換を同時に考えるべき。

□ アジアに近い北九州には優位性がある。北九州空港などのインフラは生かす必要がある。
□ 地理的優位性、特にインフラは強み。北九州空港を中心にどう活用していくか。
◎ 日産や空港を生かした国際物流エリアを整備し雇用を生む。
□ 北九州市を発展させるには、交通も意識する必要。

③ 人材育成関係
◇ クリエイティブな人材が集まるためのまちづくり。
◇ クリエイティブクラスの誘致、育成。
◇ この街は色々なチャレンジができる、若者が起業しやすい条件が整っている、という素地があれば、おのずと元気な企業が集まってくるのではないか。
◇ スタートアップ企業の創出支援（起業家・アントレプレナーの育成）。
◇ リスキリングでＤＸを取り入れないといけない。

◇ 今までにないレベルでの教育が必要（DX）。年間 20,000 人程度を輩出するようなレベル。本当は北九州市の人口の 10%程度輩出しなければ、欧米のレベルには追い付かないのではないか。
◇ スタートアップなど、若い人が挑戦しやすいまちになって欲しい。
◇ 挑戦しやすいまちにしていってほしい。失敗しても何度でも若者にチャレンジさせることが重要ではないか。
◇ 若者（大学生や高専生などが対象）の発想を活用できる環境整備。リカレントで学んだ女性や高齢者が活躍できる環境整備で先進モデルを構築する。
◇ フルタイム共働き世代の保育ニーズに応える環境。
◇ 職場のジェンダー差別をなくす（「一般職は女性に」などの慣習の見直し）
◇ ダイバーシティを推進する必要がある。福岡市や北九州市は人口に占める女性比率が男性より１割程度高い。そのような方がしっかり働ける環境を作っていくことが必要。
◇ 両立支援（育休・産休・柔軟な働き方）
◇ フリーランスレベルでもいいので在宅で仕事ができる IT スキルを学ぶ機会の創出と仕事の提供が必要。
◇ 女性でも在宅でも子育てしながら働けるというロールモデルが必要。
◇ 大学生が興味を持って物事に取り組める環境づくりを行えば、彼らが定着する可能性が増えるし、一旦出ていったとしても将来帰ってきてくれる可能性が増える。
◇ 彼らは完全に北九州市に対してシンパシーを持ち、色々な形で関わりたいという気持ちも持ってくれており、彼らをうまく使わない手はないということ。学生の力を活かしていくべきではないか。
◇ “高度な外国人材の取り込み”について東南アジアの高度な外国人材の取り込みを期待したい。アジアの現在の課題の多くは北九州市（日本）が乗り越えてきた課題であり、少子高齢化は将来のアジアの課題であることを踏まえ、高度な外国人材を受け入れることが、アジアの活力を取り込む交流につながるのではないか。

☆ 学生起業家を含め、起業家を呼び込んでいく、もしくは起業する人材を輩出する仕組みをどう作るのかというのが大事なポイント。
○ 学生が起業するための意識、起業の仕組みなど学べるプログラムをつくってほしい。
□ 大学の中での起業家育成やシーズの発掘は絶対に必要。
○ 地元のクリエイターや若い人にチャンスを作っていく。
□ 製造業の底上げのためにもＩＴが必要。リスキリングへの関心が高いのも、現場のそうした危機感から来るものだと思う。
□ 「失敗してもいいのでやってみよう」という雰囲気があり、いろんなことが試せるまちなら、若い人や起業家精神のある人が入ってくる。

○ 商流ツアーで勉強や体験をし、就職のミスマッチをなくす。
▽ 会社としての多様性の推進。
○ 地域を歩いて見て学ぶ、地域そのものが学生にとっての学ぶ教材、まち自体が教育機関になれる可能性を秘めている。
○ 留学生などいろいろな人が暮らしやすくなることでまちが発展していく。

（２）「ハイクオリティ」な都市づくり

①　まちづくり関係

◇ 小さな都市づくりを可能にする開発可能区域（商業施設や住宅）の設定。
◇ 若くて、高所得で才能のある人たちのライフスタイルをイメージしたまちのデザイン（ランニング、ウォーキング、趣味、仕事）
◇ エリアごとの特徴を新しい価値観で捉える。エリアごとのプロデュース、ブランディング。
◇ 魅力ある企業の誘致と周辺地域（特に福岡市）に通勤通学しやすさを改善し、子育て環境など住みやすさをアピールしてはどうか。
◇ 公園整備（市民・観光客のたまり場作り）。
◇ 都心部に転出しても、キャリアアップ・結婚後に子育てをしに戻ってくる価値のある街へ。（保育・教育の質・選択の幅が保証され、仕事の受け皿があれば、子育ての場として魅力の高い街となる）
◇ 高卒者の定着は大きな問題で、看護やデザイン等の専門学校で外に出るケースが多い。そこを何とか市内に収めていく必要がある。
◇ ベッドタウンとして、また観光の受け入れとして福岡市等と連携してほしい。
◇ 今後も福岡市と関係性を強めていく必要がある。八幡西区、小倉南区を福岡市のベッドタウン化し、人口増加を狙い、その利益を市内に循環させる、そういった発想というのが必要だと思う。
◇ 住環境、教育環境は、将来も住み続けたいと思えるまちとしては重要なコンテンツ。
◇ 今後もよりグローバル化が進展していく中で、外国人にとって安全・安心な居住環境は都市を選択する上で上位の条件になっているものと思われる。

☆ ウォーカブルなまちづくりという視点が必要。
□ 快適で魅力的な都市空間の形成を目指すべき。歩行者の視点に立ったまちなか整備を。
□ 小倉、黒崎、折尾を重点投資し、北九州市の街の顔の整備をきちっとする。　・街については、小倉の徹底した魅力化をやった方がいい。文化・遊戯施設などを含め発展させる。それ以外は住みやすい職住近接の場所と位置付ける。
▽ 若い女性が多い都市に比べると情報が遅れていると感じる。空気感、新しさ、都会っぽさといった、若い女性の目を引くものがあるとよい。
○ アジアに向けて保健医療の中心地となりうる余地が十分に考えらえれる。

○ メディカルゾーン、メディカルツーリズムやウェルビーング体験ができる場所として打ち出す。
□ 人が住むところはコンパクトに集約して、車を使わずに暮らせる街に。

② 教育関係

◇ 必要なのは教育であり、資源を人的資本に投下すれば、必要な企業が集まってくる。
◇ 教育環境は重要。幼稚園から大学まで、多様な選択肢があることが都市の強みになるのではないか。
◇ 一番重要なものは「教育」である。市外から人を呼び込もうとすると、考えるのは子どもの教育環境である。魅力ある学校ができるかを必死に考えなければならない。
◇ 教育（国内の教育に関心の高い層やアジアの富裕層が教育移住できるように、特色のある学校の整備、日本型インクルーシブ教育の高付加価値化、教育移住の支援）。
◇ 英語教育を行うインターナショナルスクールや海外大学の日本校のようなものなど。
◇ インクルージョン、グローバル教育など先進的な教育にチャレンジする街。

□ 教育の中身を充実させて、外から北九州市の学校に来たいと思わせるかどうか。
▽ 学校の選択肢が広がると子ども目線で選択ができる。教育のブランディングができると他の地域から人が入ってくる。
○ 教育に力を入れ、小中一貫校を作り、北九州市のモデルとなる学校をつくる。
□ 英語教育を充実すれば、国内外からの移住者も見込める。インターナショナルな都市になり、多様な人材が来ることは、産業振興にもつながる。
☆ 高専、工科大学的な科学系の教育機関を充実させていくことが大事。
☆ 今後の日本やアジアに必要な魅力ある新時代の教育機関（ボーディングスクールやインターナショナルスクール）をファミリー向け住宅整備とセットで行い、東アジア一体からの移住定住を集めることを検討すべき。

③ サービス関係

◇ インバウンドのお客様をどんどん引き込まないといけない状況の中で、ホテルが足りないのは深刻な問題。
◇ 滞在時間を長くしてもらうための取り組み。ホテルの誘致、空き屋や空きビルを活用（デザイン）しての宿やホテル事業。
◇ 観光において星野リゾートのような行きたくなるハイクラス向けの宿泊施設。
◇ 高級宿泊施設の誘致と観光開発。
◇ 質の高いサービス自体を成長の源泉として設定すべきではないか。

◇ 改めて観光資源があると感じた。これをいかに活用するか、アピールするかは重要で大きなポテンシャルではないか。
◇ 商店街活性化→若い世代取り込む工夫。
◇ 北九州市には、ミクニワールドスタジアムという素晴らしいレガシーがある。加えて、大変豊かなスポーツ文化が育まれている。この北九州市の持つ強みを生かし、北九州スポーツタウン構想とも呼べるような、スポーツを軸とした新しいまちづくりの推進。

□ 地の利も観光素材もある。この分野を掘り起こしたい。
○ 素晴らしい観光地の本質的な魅力と価値を正しく届けることで、観光で稼げるまちを目指す。
○ 集客の強い店を持つ商店街をよりコンパクトにまとめる。
○ 心豊かな暮らしを中心にして、「経済（お金）よりも文化（愛）を大事にするようなまち」。
◎ 「北九州に拠点がある企業、住んでいる市民はグリーン志向」みたいな、ブランドやステータスになるようにする。
□ 歴史ある文化・伝統を継承・保存する観点から、今後も継続できるようにしてもらいたい。
○ 祭りなどを通じて地域の中で世代間交流ができればいい。
○ 伝統的な祭りや行事などが、ずっと受け継がれていってほしい。
□ 人々の価値観やライフスタイルが変わる中で、仕事だけでなく、文化芸術、スポーツに親しめるなど、多様な選択ができる社会に。
□ 子育てを考えた時、東京都の文化格差・体験格差を感じる。
□ 文化的な資源と自然と歴史、非常に多様な構造でミックスされた都市としての魅力がある。
□ 文化を守る都市であってほしい。
◎ 平成中村座のような舞台やアートのある街になって欲しい。
◎ 高尚な文化も息づくまち。
◎ 遺跡と食環境と海と山を含めて職人やアーティストがうまく集まればフィレンツェのようにならないか。
□ 若い人が憧れるような文化性を持つまちに、ジャンルを絞って色を付けていくことが大事。
○ 自然とエンタメ性が融合した街づくりを行ってほしい。将来的にスポーツや文化等の世界大会が開催され、サミットなど世界会議が行われるようになってほしい。

（３）市民の「安全・安心」な暮らしの確保

① 子育て・子ども関係

◇ 地域全体で人と人とがつながり、子育てを支援していくために、公的な支援だけでなく、北九州市の人情味のある市民性を活かす。

◇ 将来に希望を持てる、出産、子育て支援が大事。

◇ 子育ての楽しみを男性にも共有し、一緒に子育ても仕事もするという社会が理想ではないか。

◇ 子どもの幸福度ナンバーワンのまちを目指すべき。

◇ 子供たちが幸せを感じられる（満たされた）環境や生活について考える。

◇ 教育の多様化支援。

◇ 制約なく遊べるプレイパークの設置。

◇ 不登校児童生徒の居場所づくり・フリースクールへの助成。

□ ママの挑戦や活躍を後押しするまちであってほしい。

○ 「働き続ける」ということに将来像として期待している。子どもを預けるところがないから仕事ができないという状態は、是非とも無くしていきたい。

▽ 女性がきちんとキャリアを積め、適切に評価され、しっかり働ける環境を。

▽ 年齢、性別に関係なく子育てに参加する意識を持ったまち。

▽ 性別による固定的な役割分担意識は、男性も女性も意識を変えていかないといけない。

▽ 親が働くために保育所があるのではなく、子どもにとって社会の中で育つ環境がよいからあるという考え方に社会がなるといい。

▽ 学校の選択肢が広がると子ども目線で選択ができる。教育のブランディングができると他の地域から人が入ってくる。

◎ 発達障害や hsc（ﾊｲﾘｰ・ｾﾝｼﾃｨﾌﾞ・ﾁｬｲﾙﾄﾞ）、hsp（ﾊｲﾘｰ・ｾﾝｼﾃｨﾌﾞ・ﾊﾟｰｿﾝ）に対する偏見をなくし、理解ある学校や社会。ブラック校則など不必要なルールをなくす。

○ 子どもの居場所づくりに力をいれてほしい。

▽ “オルタナティブスクール（フリースクールやホームスクールなど）も選択肢に。

◇ ヤングケアラーの把握と支援の仕組みづくり。

② 福祉・コミュニティ関係

◇ ダイバーシティーの推進。

◇ 「生涯を通して自己実現が可能な社会」「人とつながれる社会」「前向きな楽観性を受け入れる社会」「様々な多様性を受け入れる社会」の要素を検討することが必要。

◇ 学生や技能実習生など、彼らが住みやすいと思う環境づくりは重要。

◇ 多様多種なコミュニティの形成に資する公共サービスとリソースの提供、並びに共助を促すフレームワークの構築。
◇ テーマ型コミュニティの強化（NPO 活動等）。これまで安全安心な暮らしを支えてきたコミュニティ（地縁や家族）と行政に頼ることは限界を迎えており、テーマ別分野別の市民活動を強化していくことが必要だと思う。
◇ 障害があっても人生を豊かに楽しむことができる、まちでありたい。
◇ 健康寿命延伸の施策は今後も必要と考えられ、そのために健康行動を促すプラットフォームづくりに重点を置くべきと考える。
◇ 市民の安全・安心な暮らしの確保のキーワードに“健康経営”は挙がっている。

○ 個人として尊重される、誰もが個性を認め合う、多様性に開かれたまちが重要。
○ 人々の繋がりは街への愛着が大きい。その愛着で人も増えるし、愛着も増えるまちになって欲しい。
○ 地域の繋がりの希薄化により新たな支援の担い手が生まれづらくなっていることが課題。
○ 防災、福祉、環境等のコミュニティ活動に力を入れて、共助のモデルエリアに。
○ 高齢者も安全・安心にすごせる街～ＤＸによるきめ細やかなサービスが受けられる先進地。
○ 障害と生きづらさをなくして、誰もが楽しめる場所づくり。
☆ 健康格差の対策のため、まずは健康寿命の引き上げを目標に。
☆ 健康、人間関係、自己決定という「幸せ」の要素による健康づくり運動によって魅力的なまちになる。

③ 防災・防犯・インフラ関係
◇ 都市計画として、コンパクトシティを目指していく必要はあると思う。
◇ 災害が多発する現代では、減災を通じた安全なまちづくりの観点からもコンパクトシティは必要なものだと思う。

▽ 暗い道を明るくする、外から公園の中を見やすくする、空き家を減らす。こうしたちょっとしたことで、女性だけでなく、子どもや住む人の安心にもつながる。
○ 犯罪ゼロで治安のいいまち、安心・安全に暮らせるまちになってほしい。
▽ 明るいクリアなイメージづくり。
□ 安心して暮らすことができて、おもしろさあふれるまち。
□ 安全なまちになったので、それを将来に向けても引き継いでいくべき。安全・安心がベース。

○ 文化施設は多いが維持管理の水準がもう少し。多大な予算は難しいので、地域で支えていく体制づくりがあると良い。
○ 建物の長寿命。
○ 基本的には、今あるものをいかすべき。施設が老朽化し、今と同じような水準でできないことが増えてくるので、交通結節点を中心に充実させる街にしてほしい。
◎ 都市部を再開発するなら、セグウェイなど新しい乗り物に対応するよう道路を広く整備、災害と停電対策のため電柱を地中に埋め、道路の素材を水を吸収する素材にして水害を減らし、街路樹を増やして都市気温を下げる。
○ 観光と日常で使う人をうまく抱き合わせて交通を作る。
◎ LRT などで交通網を整備して自家用車に頼らないまちをつくる。